



我が家の家庭教育

橋場 毛利 快晴

私たちが子供の頃は、小学生でも中学生でも家に帰ってまで勉強すると、親から叱られました。勉強は学校でやり、家に帰れば手伝いをしなければなりません。つまり労働人口の一人と教えられていたわけです。教科書は持って帰りますが、開けてみるこ

とは、昼間はあまりなかったのですが、夜は少しは開いたのかもしれませんが。疲れが出て、いつのまにか寝てしまう毎日が繰り返えされました。今、実社会に出て仕事をしていますと、新しい理論、新しい技術が次つきと出てきて、実際の

仕事に
応用さ

一生勉強

全体に
少なく
なって

上には、どうしても勉強しなければならなくなります。また、新しい物の考え方も養わなければなりません。このよ

よいのではないかと思えます。仕事をしていく上でも、また健全な生活を送る上でも健康な体を作らなければなりません。子供の頃、家事の手伝いでいつのまにか体が鍛えられました。今は家で肉体労働をしなければならぬ家庭は、

ポーツは、精神の活動を活発にする最良の手段だと思えます。考えることは易しいが、実



9月9日 中学校体育祭で毛利さん親子

このように考えてくると、教育とは、特別に考えなくても、自然に生活の中に入り込んでくることと思えます。ただ見本となるべく親がいなければならぬと思えます。人生の最高の目的は現在の教育によって人格を強く鍛えあげ、可

児童・生徒の作品コーナー



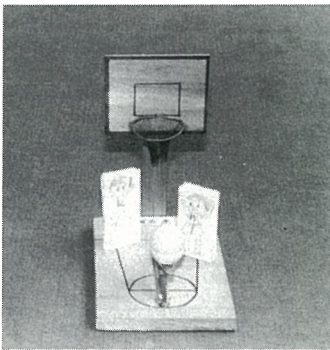
東陽小学校児童の紹介



4年2組 椎名 恵さん

※ゴールのあみをはり金に通すところが、むずかしかったです。

『バスケットゲーム』



6年2組 辺見 ゆかりさん

※たいこのバチが、きちんとしたいに当たるように工夫しました。



『たいこをたたく人形』